

# 四半期報告書

(第155期第2四半期)

自 平成24年7月 1日

至 平成24年9月30日

保土谷化学工業株式会社

東京都中央区八重洲二丁目4番1号

# 目 次

頁

【表紙】	
第一部 【企業情報】	
第1 【企業の概況】	
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	1
第2 【事業の状況】	
1 【事業等のリスク】	2
2 【経営上の重要な契約等】	2
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	2
第3 【提出会社の状況】	
1 【株式等の状況】	
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 【役員の状況】	5
第4 【経理の状況】	6
1 【四半期連結財務諸表】	
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
2 【その他】	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【四半期会計期間】	第155期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	保土谷化学工業株式会社
【英訳名】	Hodogaya Chemical Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 喜多野 利和
【本店の所在の場所】	東京都中央区八重洲二丁目4番1号
【電話番号】	(03) 5299-8000
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 富山 裕光
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区八重洲二丁目4番1号
【電話番号】	(03) 5299-8019
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 富山 裕光
【縦覧に供する場所】	保土谷化学工業株式会社大阪支店 （大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第154期 第2四半期連結 累計期間	第155期 第2四半期連結 累計期間	第154期
会計期間		自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月 1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	17,173	16,811	35,188
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	200	△65	1,228
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△)	(百万円)	570	△1,143	1,623
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	440	△752	1,277
純資産額	(百万円)	27,655	27,035	28,184
総資産額	(百万円)	50,724	51,272	52,116
1株当たり四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△)	(円)	7.21	△14.46	20.53
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	7.21	—	20.47
自己資本比率	(%)	52.5	50.3	51.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,950	1,702	2,945
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,542	△927	△3,307
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	634	373	507
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	7,530	7,725	6,557

回次		第154期 第2四半期連結 会計期間	第155期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成23年7月 1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月 1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純損失(△)	(円)	△4.57	△12.29

(注1) 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

(注2) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(注3) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間の事業の概要は、次のとおりです。

##### 〔機能性色素セグメント〕

電子材料事業は、欧州債務危機による先行きの不透明感から、需要が鈍化し、大幅に減少いたしました。  
色素材料事業は、文具用染料が、景気低迷による海外の需要が鈍化したことで、減少したものの、アルミ着色用染料の海外需要が伸張し、前年同期並みとなりました。  
有機EL材料事業は、前期第2四半期から連結子会社化した SFC Co.,Ltd. の売上が寄与し、増加いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、46億7百万円となり、前年同期比21百万円（0.5%）の減収、となりました。

##### 〔機能性樹脂セグメント〕

樹脂材料事業は、接着剤が、顧客での生産調整があり、減少いたしました。  
特殊化学品事業は、樹脂関連分野の需要が伸び悩んだものの、医薬品分野の需要が回復し、前年同期並みとなりました。  
建築材料事業の材料販売は、ウレタン系防水材分野での改修物件の継続的な獲得により、増加いたしました。  
一方、工事は、第2四半期に入り、大型物件の獲得が出来、前年同期並みとなりました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、57億53百万円となり、前年同期比34百万円（0.6%）の増収、となりました。

##### 〔基礎化学品セグメント〕

過酸化水素は、動物用医薬品（水産用）の新規展開により、増加したものの、主力の紙パルプ・工業薬品分野の需要が低迷し、前年同期並みとなりました。  
過炭酸ナトリウムは、東日本大震災の影響からの回復により、増加いたしました。  
その他の工業薬品は、他社の参入により、受注の獲得が出来ず、大幅に減少いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、36億円となり、前年同期比2億89百万円（7.4%）の減収、となりました。

##### 〔アグロサイエンスセグメント〕

アグロサイエンス事業は、原発事故の風評被害で停止していた輸出の復活や、殺虫剤の伸張があったものの、家庭園芸用除草剤で、顧客での生産調整により、大幅に減少いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、20億71百万円となり、前年同期比1億49百万円（6.7%）の減収、となりました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、168億11百万円となりました。  
また、損益面では、営業利益1億45百万円を確保いたしましたが、  
経常損失は65百万円、四半期純損失は11億43百万円、となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末（9月末）における資産合計は、512億72百万円となり、前連結会計年度末（3月末）比8億43百万円の減少となりました。

資産の減少の主な要因は、現金及び預金が5億77百万円、有価証券が5億円増加した一方、受取手形及び売掛金が14億22百万円減少、投資有価証券が3億7百万円減少した等によるものです。

負債は、前連結会計年度末比3億5百万円の増加となりました。

その主な要因は、支払手形及び買掛金が5億79百万円減少した一方、短期・長期借入金が8億58百万円の増加した等によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末比11億49百万円の減少となりました。

その主な要因は、利益剰余金の減少14億60百万円等によるものです。

以上の結果、自己資本比率は50.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ11億67百万円増加し、77億25百万円となりました（前年同期比1億95百万円増）。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少及び法人税等の支払による支出を

売上債権の減少等による収入が上回り、17億2百万円の収入となりました（前年同期は19億50百万円の収入）。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資による支出等により、

9億27百万円の支出となりました（前年同期は15億42百万円の支出）。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の借入等により、

3億73百万円の収入となりました（前年同期は6億34百万円の収入）。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、8億76百万円であります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	84,137,261	84,137,261	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株で あります。
計	84,137,261	84,137,261	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	84,137	—	11,196	—	7,093

##### (6)【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
東ソー(株)	東京都港区芝3-8-2	16,828	20.00
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	9,503	11.29
保土谷化学工業(株)(自己株式)	東京都中央区八重洲2-4-1	5,033	5.98
(株)みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	2,987	3.55
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1-13-2	2,274	2.70
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,750	2.08
明治安田生命保険(相)	東京都千代田区丸の内2-1-1	1,645	1.96
三井住友海上火災保険(株)	東京都中央区新川2-27-2	1,414	1.68
(株)東邦銀行	福島県福島市大町3-25	1,281	1.52
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,201	1.43
計	—	43,918	52.20

(注1) 当社の主要株主である東ソー株式会社から、平成24年8月1日付「変更報告書No.6（大量保有）」の写しの送付があり、東ソー株式会社が、『契約日を平成24年8月1日とする、信託銀行との間で保有株式の一部を売却するために、自らを委託者兼受益者とする有価証券処分信託契約（当初信託設定株式数：11,221,000株、信託期間：平成24年8月1日から平成25年2月28日）を結んだ』旨の報告を受けております。

(注2) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）の所有株式数には、東ソー株式会社による、信託設定株式が含まれております。しかし、当社としては、各社の当第2四半期会計期間末時点における、実質所有株式数の確認が出来ませんので、株主名簿上の所有株式数を、上記大株主の状況に記載しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 5,033,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 78,291,000	78,291	—
単元未満株式	普通株式 813,261	—	—
発行済株式総数	84,137,261	—	—
総株主の議決権	—	78,291	—

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の合 計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
（自己保有株式） 保土谷化学工業㈱	東京都中央区八重洲 2-4-1	5,033,000	—	5,033,000	5.98
計	—	5,033,000	—	5,033,000	5.98

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



#### 第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,398	6,975
受取手形及び売掛金	※1, ※3 11,572	※1, ※3 10,149
有価証券	300	800
商品及び製品	3,603	4,006
仕掛品	573	188
原材料及び貯蔵品	1,369	1,764
繰延税金資産	368	120
その他	716	366
貸倒引当金	△22	△18
流動資産合計	24,878	24,352
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,663	6,497
土地	11,223	11,232
その他（純額）	4,538	4,184
有形固定資産合計	21,425	21,914
無形固定資産		
のれん	1,772	1,532
その他	445	379
無形固定資産合計	2,218	1,911
投資その他の資産		
投資有価証券	2,614	2,307
長期貸付金	32	37
繰延税金資産	28	21
その他	1,104	901
貸倒引当金	△185	△174
投資その他の資産合計	3,594	3,093
固定資産合計	27,237	26,919
資産合計	52,116	51,272

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 5,344	※3 4,765
短期借入金	6,392	6,539
未払法人税等	240	229
引当金	614	545
資産除去債務	39	—
その他	2,748	2,886
流動負債合計	15,380	14,967
固定負債		
社債	66	—
長期借入金	5,136	5,847
繰延税金負債	1,218	1,236
再評価に係る繰延税金負債	1,428	1,428
引当金	244	212
その他	457	545
固定負債合計	8,551	9,270
負債合計	23,931	24,237
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,590	9,590
利益剰余金	5,924	4,463
自己株式	△1,690	△1,691
株主資本合計	25,020	23,558
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△222	△18
繰延ヘッジ損益	△10	△8
土地再評価差額金	2,583	2,583
為替換算調整勘定	△365	△319
その他の包括利益累計額合計	1,983	2,236
新株予約権	52	58
少数株主持分	1,128	1,181
純資産合計	28,184	27,035
負債純資産合計	52,116	51,272























# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成 24 年 11 月 9 日

保土谷化学工業株式会社  
取締役会 御中

太陽A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大村 茂 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹原 玄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている保土谷化学工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、保土谷化学工業株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月12日
【会社名】	保土谷化学工業株式会社
【英訳名】	Hodogaya Chemical Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 喜多野 利和
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役兼常務執行役員 湯沢 和好
【本店の所在の場所】	東京都中央区八重洲二丁目4番1号
【縦覧に供する場所】	保土谷化学工業株式会社大阪支店 (大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 喜多野利和 及び当社最高財務責任者である取締役兼常務執行役員 湯沢和好 は、当社の第155期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）の四半期報告書の記載内容が、金融商品取引法令に基づき、適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。